

藍瓶設之部

寛文八戊申年十月廿六日

定

一 或為相摸仔夏上野下野安房上総下

総常陸以九ヶ所緹屋藍瓶設之事任天

正廿年二月朔日緹屋以去屋之席右北門頂

載之 御朱印之名城附之傾地除之

之不藍瓶去之付米斗之能令收納米

当时依为第... 自今以後... 百文宛... 願... 知... 戶... 年... 彼... 同... 納... 奉...

知古由下... 寺社... 新

十三平... 之... 分... 不... 友... 出... 設... 法... 以

仍... 之... 旨... 也...

寬文八戊申年十月廿六日

内膳正

但馬守

大和守

貞溪守

右旧令集

十三平... 大... 令

定

江戸町中并下総玉川依念依餅屋藍瓶
役之事雖載于天正廿年二月朔日餅屋
本席右邊門頂載之 漸米平乞配分于
同役取古屋右邊門畢藍瓶乞付而米乞斗
宛被收納来乞交当时为米乞通乞自今
以後乞新定為目或百文宛也然志右乞目
江戸中乞每年霜月中右邊門取乞納来
乞納乞依念依乞若乞手代乞又霜月中可
收納乞若於乞強強乞族乞速達在乞更乞
方乞也

寛文八戊申年十月廿六日

内膳正判

但馬守日

寛文八戊申年十月廿六日

宝永二乙酉年三月

一 緹屋藍瓶役之事其の所存自式百文宛毎

年暮月中一箇の分給 俸付の受取済

緹屋共々之由今度古屋右邊の所許依中

為来不勘之緹屋共々之出 来山受下急

度持来仕の帳中一箇の自今以後發以定之

通毎年年暮月中藍瓶役に済出の帳中

緹屋共々一箇の以之

三月

右大成令